日本学術会議　課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力の在り方検討委員会
技術協力・被災地支援分科会（第２回）議事要旨

１．日　時：2010 年 7 月 12 日(月)午後 4：45－5：45
２．場　所：日本学術会議　6-C（2）会議室
３．出席者：（委　員）和田、入倉、田村、小松、
　　（小委員会委員）五道、藤原
４．議　題：1）　前回議事要旨（案）の確認
　　2）　新委員の紹介
　　3）　技術協力・被災地支援への取り組みに関する議論
　　4）　次回分科会までの整理

５．議事概要
（１）議題　1）前回議事要旨（案）の確認
　前回議事要旨について確認され、了承された。
（２）議題　2）新委員の紹介
　本分科会に、国土交通省河川局河川計画課河川情報企画室の五藤室長が加わることが紹介された。
（３）議題　3）技術協力・被災地支援への取り組みに関する議論
　和田委員長より、自然災害軽減への5つの取り組み（東大生産研・目黒教授提案）に照らした国際的な技術協力・被害地支援への取り組みを整理することが提案され、以下の点が議論された。

- ハザードとして地震災害があることはわかっていても、100 年以上も発生していなければ予算確保、対策実施が困難であるのが実情。
- 事前の対策などでも、当地の状況に合わせた対策が必要。また、ソフトや設計においてもその国のスペックに合わせて作ることが重要。
- 各国、それぞれの基準を持っている。日本がいくら良い技術・基準を持っていても、現地の基準と合っていなければ使われない。
- 日本のサポートが事後の緊急支援においては、ドイツ、フランスなどの地震が少ない国々からの対応と比べても、日本の対応は遅いように感じる。何が問題であるのか。
- 地震のリスクを確率論的に示そうというプロジェクト（GEM：Global Earthquake Model）が進んでいるが、日本抜きで行われている。先進国では面子をかけて行っているのに対し、日本では組織的な（国策としての）取り組みが弱いのではないか。
- リスクに対し、確率で表現することが重要。
- パスツールの言葉“Science Knows no Country”にあるように、国益だけを考えているだけではダメである。

（４）議題　4）次回分科会までの整理

- 委員長が提示した 5 つの場面に対して、各委員の経験等から、具体事例や課題・考え方のポイント等を埋めることとする。
- とりまとめに際しては、地震災害と風水害（洪水・土砂災害など）に区分して行うものとし、埋められない箇所があっても構わない。
- 7 月末までに、千木良幹事に提出する。